

北里大学メディカルセンター 公的医療機関等 2025 プラン

2022 年度版

○基本情報

医療機関名：	北里大学メディカルセンター
開設主体：	学校法人 北里研究所
所在地：	埼玉県北本市荒井6丁目100番地
許可病床数：	372床
（病床種別）	一般病棟 372床
（病床機能別）	高度急性期機能、急性期機能、回復期機能
稼働病床数：	334床
（病床種別）	一般病棟 334床
（病床機能別）	高度急性期機能、急性期機能、回復期機能
診療科目：	
	内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、病理診断科（全 27 科）
職員数：	643 人（2023 年 1 月）
（医師）	97 人
（看護職員）	350 人
（専門職）	129 人
（事務職員）	67 人

1. 現状と課題

①当該病院（自施設）の現状 地域内での役割・機能

- ・地域医療の中核病院として、高度急性期、急性期、回復期の機能を有し、他の医療施設と連携して、良質かつ安全な医療の提供に努めている。
- ・高齢化による疾病への対応として、脊椎、膝関節等の整形外科領域の治療の充実を図ると共に、従前からの心筋梗塞等の循環器疾患治療及び予防に努めている。
- ・24 時間体制で救急応需を行っており、当院への救急要請数は増加傾向にある。
- ・地域に手薄な周産期医療、小児医療を担っている。特に、小児医療については、夜間帯の二次救急当番を実施しており、重要な受け皿となっている。
- ・健診センターを併設して、疾病の早期発見、生活習慣病予防等への取り組みを行っている。また、市民公開講座の開催等、地域住民の健康増進に寄与している。

②当該病院（自施設）の課題

- ・地域からのニーズが高い呼吸器内科、救急科、脳神経内科等の診療科の医師が不足しているため、それらの医師確保に向けて取り組んでいる。

2. 医療機能ごとの病床数

時点	病床数	医療機能別					区分別	
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	一般	療養
2022年 7月1日 時点	372床	6床	298床	30床	0床	38床	334床	0床
2025年 7月1日 時点	372床	6床	328床	0床	0床	38床	334床	0床

※令和4年度病床機能報告の数値を入力

3. 今後の方針

①地域医療構想を踏まえた当該病院（自施設）の地域において今後担うべき機能・役割

- ・地域医療機関との連携を更に強化し、当院の高度急性期機能、急性期機能を最大限に発揮させていく。また、早期の在宅復帰を図るため、多職種による患者ケアの充実とPFMの推進により、地域完結型医療の構築に貢献していく。
- ・夜間救急については、内科系、外科系、産婦人科、小児科の各当直医を配置しているが、救急要請の増加に対応しきれない状況がある。今後、医師の働き方改革への対応についても考慮しつつ、救急応需体制を整備して、県央地域において重要な救急医療の一端を担っていく。

②①を踏まえた今後の方針

（病床機能や診療科の見直し、他病院との連携の方針、その他見直しの予定等）

- ・地域完結型医療を目指すためには、今後、益々、医療機関連携が重要と考えている。これまで進めてきた、病診連携に加えて、病病連携についても積極的に推進し、医療資源を有効活用して、地域住民へ良質かつ安心、安全な医療の提供に努めていく。
- ・今後も、県央区域からの救急要請と手術実施件数の増加が見込まれることから、回復期リハビリテーション病床（30床）を急性期病棟へ転換し、地域の医療ニーズに添えていく。

③その他の数値目標について

②に関連する当該病院（自施設）で設定している数値目標を記載

病床稼働率：90%

紹介割合：110%

逆紹介割合：46%

4. 新興感染症への取組

自由記載

新興感染症を想定して、院内感染防止対策の手引きにフェーズに応じた院内対応、受け入れ時の動線、感染症受入れ病棟のゾーニングを明記し、職員への教育を実施している。また、県央区域の北本、鴻巣、桶川、上尾の4市にわたる医療機関と感染対策についての連携関係を構築しており、当院主催で実施した講習会では、感染防護具の着脱、手指衛生等の標準予防策を取り上げ、実践形式の講習は、好評であった。このような活動を通じて、今後も地域の医療従事者へ対する感染対策の教育について積極的に取り組んでいく。

5. その他

自由記載